

## 155

## 非観血治療を行い2年以上生存した肺癌症

## 例の検討

神戸市立中央市民病院呼吸器内科

○坂本廣子, 片山信之, 李 英徹, 石原享介,  
岩崎博信, 梅田文一, 中井 準

目的: 近年、癌化学療法や全身管理の進歩に伴い、非観血的治療でも長期生存例が得られるようになったので、今後の予後判定や治療方針決定の一助とすべく、2年以上生存例について検討した。

対象: S.48年5月からS.57年6月までに当院で肺癌と診断し、非観血的治療を行い、2年以上追跡できた症例350例を対象とした。この内33例が、2年以上生存した症例であった。

結果: 2年以上生存例の頻度は、33例(9.43%)で、性別頻度は、男性が255例中23例(8.63%)、女性が95例中10例(11.6%)とやや女性に多かった。組織別頻度は、扁平上皮癌(Ep)126例中14例(11.1%)、腺癌(Ad)126例中12例(9.5%)、小細胞癌(Sm)57例中6例(10.5%)、巨細胞癌(Gi)6例中1例(16.7%)であった。病期別では、I期9例(27.3%)、II期5例(15.2%)、III期14例(42.4%)、IV期5例(15.2%)であった。Sqでは、14例中5例(35.7%)とI期例が多かった。治療別では、放射線療法6例(Ep4, Ad2)、化学療法7例(Ad6, Sm1)、放射線療法+化学療法14例(Ep5, Sm5, Ad3, Gi1)、放射線療法+気管支動脈内注入療法6例(Ep5, Ad1)。腺癌の内、胸水型は5例で胸腔内制癌剤注入及びチューブドレナージが行われた。33例中26例(78.8%)が何らかの免疫療法を受けていた。治療効果は、Epでは、CR+PRが12/14(85.7%)、Smでは、CR+PRが6/6(100%)と治療の有効例に長期生存例が多いのであるが、Adでは、胸水型はPRが4/5(80%)に対し、肺野型は、CR0, PR1/7(14.3%)と無効例が多く、長期生存と抗腫瘍効果との関連が少ない様であった。

33例中、17例が現在も生存中で、最長生存は、7年生存の67才腺癌で、放療+B.A.I.を受けてPRを得た症例で、生存中である。4年生存は、3例(Ad1, Sm2)で内、2例が生存中。3年生存は、6例(Ep4, Ad1, Sm1)で、Epの4例が生存中で、内3例が放療+B.A.I.を受けた。3年以上生存例には、IV期例はなかった。2年生存の頻度を年度別にみると、S.48~52年 5/132(3.8%)に対し、S.53~57年は28/213(13.1%)と増加しており、特にEp1/53(1.9%)から13/73(17.8%)、Sm1/20(5%)から5/37(13.5%)と著明に増加した。

結論: 非観血的治療による2年以上生存例は、33例(9.43%)で、前期(S48~52年)に比較して後期は(S53年~57年)は、3.8%から13.1%と著明に増加した。長期生存例では、扁平上皮癌及び小細胞癌に放射線療法及び化学療法の奏効例が多く、腺癌では、抗腫瘍効果との関係は、必ずしも認められなかった。

## 156

## 非観血的治療による原発性肺癌の長期生存例の検討

長崎大学第2内科

○神田哲郎, 鶴川陽一, 河野謙治, 岡 三喜男  
荒木 潤, 峯 豊, 植田保子, 河野 茂,  
斉藤 厚, 原 耕平

最近、肺癌の増加は目覚ましいものがあるが、従来長期生存例の多くは外科的療法がなされた患者であった。しかし、抗癌剤の開発や放射線療法の併用などにより非観血的治療にても長期生存例をみるようになってきた。今回、我々は当教室の2年以上の長期生存例について検討を加えた。

昭和49年より昭和57年までの9年間に当科で原発性肺癌の診断をうけ、非観血的治療を受けたのは240例で、18例(7.5%)が2年以上の長期生存例であった。男性12名、女性6名で年令は32才~79才、平均66.5才であった。組織型別では扁平上皮癌61例5例(8.2%)、腺癌103例中7例(6.8%)、小細胞癌49例中4例(8.2%)、大細胞癌27例中2例(7.4%)であった。臨床病期分類では、I期3例、II期5例、III期9例、IV期1例で、抗腫瘍効果は判定できる11例中6例が有効であり、判定できない7例では胸水減少や無気肺の改善がみられた例が大多数であった。入院時のツ反は16例中11例(68.8%)に陽性であった。

また、5年以上の生存例は、55年以降例を除く153例の非観血的治療をうけた者のうち、4例(2.6%)にみるのみで、2年生存例で5年生存に至らなかった例は、現在生存の3例を除くといずれも癌死であった。

2年以上の長期生存例を組織別にみると、小細胞癌4例はいずれもlimited diseaseで放射線治療と化学療法をうけており、2例は5年以上生存中で、他の1例も3年生存中である。扁平上皮癌はいずれもII, III期で、放射線治療や化学療法併用療法をうけていたが5年生存例はなかった。腺癌7例の治療は、放射線治療+化学療法3例、胸膜癒着3例、化学療法1例で5年生存した2例はI期で放射線+化学療法群であった。大細胞癌2例はいずれも放射線治療をし、1例は4年生存中である。

結論: 2年以上の生存例が非観血的治療例の7.5%にみられ、5年以上の生存は非小細胞癌ではI期例に小細胞癌ではlimited diseaseにみられた。